

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 タクティクス・ハイブリッド	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.490	△RG 0.051	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：タクティクス・ハイブリッド

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 番

PAPからピンとの距離
4-1/2 インチ

研磨剤

比較対照ボール：タクティクス

フレアーの幅 インチ

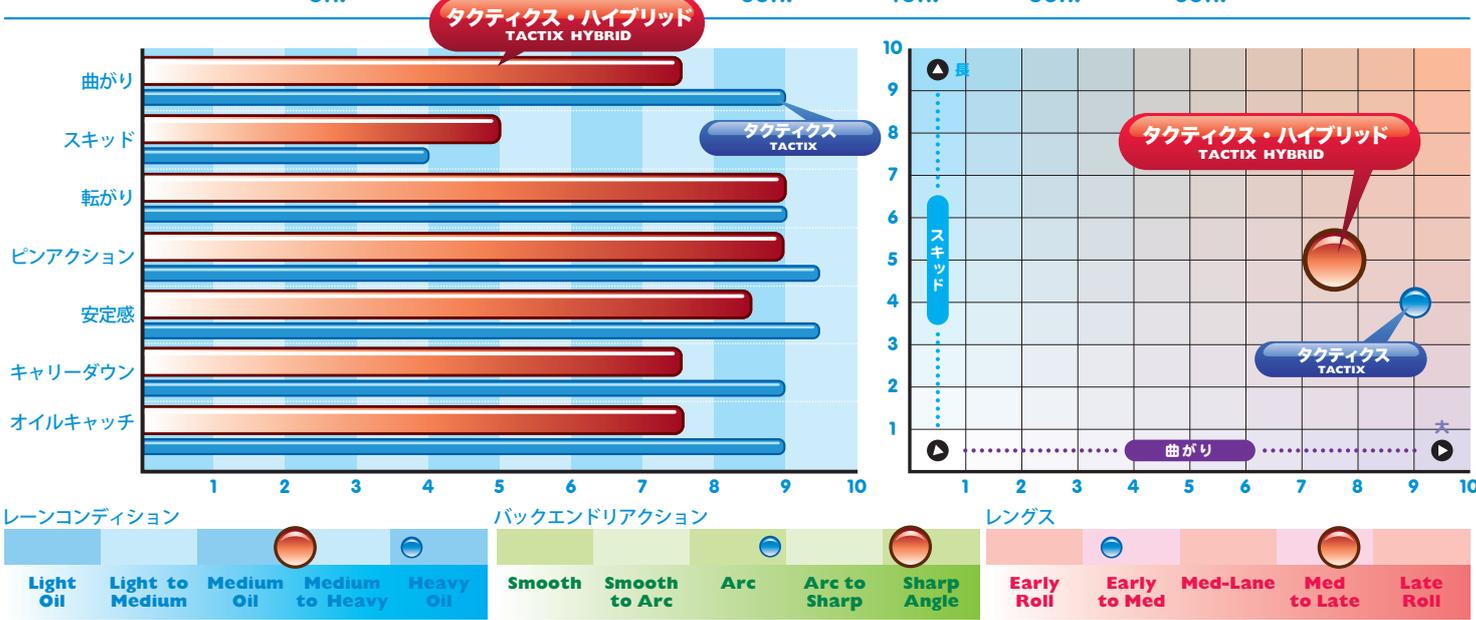
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 番

PAPからピンとの距離
4-1/2 インチ

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

TRACK社でUpper Mid Performance領域を担っているTACTIX。初代TACTIXはQR-9 Solidを纏い、Mid Laneからのキャッチ力を前面にだし、持続的な曲がり(Continuous)が扱いやすさと実用性の高さが難しいコンディションになるほどその性能を発揮し、使用されました。今回発売するTACTIX HybridはQR-9領域のHybridを採用することで、初代TACTIXの持続的な曲がりをSkid Snapに変え、SolidのTACTIXよりも攻撃性を主にした性能で発売します。

私のテストングの第一印象は、QR-9領域としては思った以上にスキッド力を感じました。初代TACTIXのイメージを持って投球したこともあり、TACTIXの曲がりのイメージから一変し、先の動きを強調させた性能が色濃く出ています。

TACTIXで曲がり感が得られるラインをまだ先までいく直進力があるので、自ずとラインはTACTIXよりもやや外目のアジャストになります。中盤から曲がり始める初代TACTIXと先で動くTACTIX Hybridという使い分けができること、初代TACTIXで動きがボケて感じる方にはメリハリ感が効いたTACTIX Hybridの方が曲がっていると感じる方もいるでしょう。

私にはオイルを長く使うのであれば初代TACTIX。やや外目に向きながらドライエリアからしっかりと戻すラインを取るのであればTACTIX Hybridを選ぶでしょう。この二つは似通った運動性ではなくしっかりと性能分類されていますので、用途に合わせたボールチョイスが可能であり、各々魅力の部分が異なる出来だと思えます。Hybrid素材でややスキッドが重視される傾向に感じるのも、もう少しオイルに対しての強さを求めるようならもう少し光沢を消し、手前のオイルに対しての強さを出すのも視野に入れた購入もありだと思います。強めのカバーで走りを感じ、バックエンドに動きの中心を持ちたい方はTACTIX Hybridは非常に印象の強いボールとなるでしょう。

特記事項

持続的な曲がりのTACTIXからバックエンドを意識させるボールがこのTACTIX Hybrid。やや強めのカバーで走りとキレを求めている方はこのボール非常に武器になるでしょう。